

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月12日
【四半期会計期間】	第21期第1四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社ボルテージ
【英訳名】	Voltage Incorporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 津谷 祐司
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	経理本部長 大島 小百合
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	経理本部長 大島 小百合
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第1四半期連結 累計期間	第21期 第1四半期連結 累計期間	第20期
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日	自2018年7月1日 至2019年6月30日
売上高 (千円)	1,827,016	1,651,917	7,119,560
経常損失 () (千円)	92,352	75,905	237,140
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	99,529	118,672	355,988
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	94,285	118,376	361,288
純資産額 (千円)	2,270,835	1,886,557	2,004,933
総資産額 (千円)	3,034,384	2,575,775	2,783,645
1株当たり四半期(当期)純損失金額 () (円)	19.37	23.08	69.26
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	74.8	73.2	72.0

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、第20期第1四半期連結累計期間及び第20期については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため、第21期第1四半期連結累計期間については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)財政状態の分析

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、2,575,775千円（前連結会計年度末比207,870千円減）となりました。

流動資産は、2,196,692千円（同168,279千円減）となりました。その主な要因は、決算納税等による現預金の減少128,527千円及び売上減少による売掛金減少30,557千円等によるものであります。

固定資産は、379,082千円（同39,590千円減）となりました。その主な要因は、ソフトウェア等の減損による無形固定資産の減少38,869千円によるものであります。

(負債の部)

負債合計は、689,217千円（同89,493千円減）となりました。

流動負債は、689,217千円（同89,493千円減）となりました。その主な要因は、消費税納付による未払消費税等の減少48,587千円及び売上減少による販売手数料減少や広告費減少等による未払費用の減少35,289千円によるものであります。

(純資産の部)

純資産は、1,886,557千円（同118,376千円減）となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少118,672千円によるものであります。

(2)経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかに回復する中で、企業収益は高い水準で底堅く推移しました。また、個人消費は、消費者マインドが弱含んでいるものの、実質総雇用者所得が緩やかに増加するなど、持ち直しております。

モバイルコンテンツ業界においては、2019年4月から6月の四半期において、スマートフォンアプリのダウンロード数及び消費支出が過去最大となっております。（注1）。

当社グループにおきましては、「日本語女性向け」「英語女性向け」「男性向け」「IP展開」の4区分で事業を運営しておりましたが、イベント・コンシューマ等「アプリ外」展開の推進に合わせ、当第1四半期連結会計期間より「日本語女性向け」「英語女性向け」「男性向け」「アプリ外」の4区分で事業を運営しております。

当第1四半期連結累計期間における売上は、「アプリ外」が増加したものの、「英語女性向け」「日本語女性向け」等が減少し、1,651,917千円（前年同期比9.6%減）となりました。費用は、採用抑制に伴う人員減による労務費の大幅な減少や、売上減少による販売手数料の減少、サーバーのクラウド化やオフィス減床による賃借料の減少により、全体として大幅に減少しました。その結果、営業損失は74,452千円（前年同期は営業損失89,604千円）、経常損失は75,905千円（同 経常損失92,352千円）となりました。また、ソフトウェア等の減損損失による特別損失41,905千円の計上があったことで、親会社株主に帰属する四半期純損失は118,672千円（同 親会社株主に帰属する四半期純損失99,529千円）となりました。

事業区分別の経営成績は、以下のとおりであります。なお、当第1四半期連結会計期間より、事業区分を変更しておりますので、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後の事業区分に組み替えて比較しております。

事業区分別の主要なタイトル名、及びその略称は次のとおりです。

事業区分	分類	主要タイトル	略称
日本語女性向け	読み物型(注2)	100シーンの恋+ ダウト～嘘つきオトコは誰?～	100恋+ ダウト
	アバター型(注3)	天下統一恋の乱 Love Ballad 誓いのキスは突然に Love Ring 眠らぬ街のシンデレラ 鏡の中のプリンセス Love Palace 新 王子様のプロポーズ Eternal Kiss 魔界王子と魅惑のナイトメア	恋乱 誓い シンデ ミラブリ 王子 魔界
	カード型(注4)	あやかし恋廻り	あや恋
	声優型(注5)	アニドルカラーズ	アニドル
英語女性向け	読み物型	Love365: Find Your Story(注6) Lovestruck: Choose Your Romance(注7)	Love365 Lovestruck
	カード型	Ayakashi: Romance Reborn	Ayakashi
男性向け	カード型	六本木サディスティックナイト	六本木
アプリ外	イベント・ライツ 展開	「恋乱」展示会、「あや恋」ファンミーティング	
	コンシューマ展開	Nintendo Switch向け「恋してしまった星の王子」	

日本語女性向け

日本語女性向けは、「読み物型」「アバター型」「カード型」「声優型」に分類して展開しております。主力の「アバター型」「読み物型」が減少し、売上高は1,003,550千円（前年同期比7.9%減）となりました。

英語女性向け

英語女性向けは、「Love365」「Lovestruck」等が該当します。主に「Love365」が減少したことにより、売上高は369,109千円（前年同期比20.0%減）となりました。

男性向け

主に「六本木」が減少したことにより、売上高は249,652千円（前年同期比5.4%減）となりました。

アプリ外

アプリ外はイベント、グッズ、映像・音楽などのイベント・ライツ展開、Nintendo Switch向けコンテンツのコンシューマ展開等が該当します。

主にイベント・ライツ展開が増加したことにより、売上高は29,605千円（前年同期比140.6%増）となりました。

- (注) 1. 出所: App Annie Inc. 「2019年第2四半期のモバイルデータ市場動向」2019年8月8日
2. 読み物型: ストーリーを楽しむことがメインとなるタイプのアプリ。
3. アバター型: ストーリーをメインに、アバターなどのゲーム性を組み合わせたタイプのアプリ。
4. カード型: カードの収集・育成要素を持つタイプのアプリ。
5. 声優型: アプリ運用と並行し、声優陣を起用したアプリ外イベントやCD販売等を積極的に展開するタイプのアプリ。
6. Love365: Find Your Story: 日本語版恋愛ドラマアプリを翻訳した海外市場向けコンテンツであり、1つのアプリ内で複数のタイトルが楽しめる「読み物アプリ」。
7. Lovestruck: Choose Your Romance: SFスタジオ(米国サンフランシスコにある連結子会社)にて海外市場向けに制作した「読み物アプリ」。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,120,000
計	15,120,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,233,675	5,233,675	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株となっております。
計	5,233,675	5,233,675	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	5,233,675	-	942,554	-	908,154

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 91,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,139,000	51,390	権利内容に限定のない標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,175	-	-
発行済株式総数	5,233,675	-	-
総株主の議決権	-	51,390	-

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ボルテージ	東京都渋谷区恵比寿 四丁目20番3号	91,500	-	91,500	1.75
計	-	91,500	-	91,500	1.75

(注) 当第1四半期会計期間末現在の所有自己株式数は、91,581株となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,345,946	1,217,419
売掛金	932,141	901,584
前払費用	69,868	57,579
その他	17,227	20,316
貸倒引当金	213	207
流動資産合計	2,364,971	2,196,692
固定資産		
有形固定資産	4,911	4,193
無形固定資産		
ソフトウェア	39,971	1,259
コンテンツ	157	-
無形固定資産合計	40,128	1,259
投資その他の資産	373,633	373,630
固定資産合計	418,673	379,082
資産合計	2,783,645	2,575,775
負債の部		
流動負債		
買掛金	101,008	86,736
未払金	1,044	2,268
未払費用	527,214	491,924
未払法人税等	14,463	5,142
預り金	43,745	11,586
賞与引当金	6,007	55,585
その他	85,227	35,973
流動負債合計	778,711	689,217
負債合計	778,711	689,217
純資産の部		
株主資本		
資本金	942,554	942,554
資本剰余金	908,154	908,154
利益剰余金	242,265	123,593
自己株式	100,222	100,222
株主資本合計	1,992,752	1,874,079
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	54	110
為替換算調整勘定	12,235	12,588
その他の包括利益累計額合計	12,180	12,477
純資産合計	2,004,933	1,886,557
負債純資産合計	2,783,645	2,575,775

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
売上高	1,827,016	1,651,917
売上原価	688,631	612,704
売上総利益	1,138,385	1,039,213
販売費及び一般管理費	1,227,990	1,113,665
営業損失()	89,604	74,452
営業外収益		
受取利息	1,414	1,275
受取配当金	0	3
投資有価証券売却益	-	219
固定資産売却益	-	317
為替差益	7,818	-
雑収入	1,196	533
営業外収益合計	10,429	2,350
営業外費用		
為替差損	-	2,656
投資有価証券評価損	-	1,053
固定資産売却損	3,660	-
固定資産除却損	9,506	37
雑損失	10	56
営業外費用合計	13,177	3,803
経常損失()	92,352	75,905
特別損失		
減損損失	6,008	41,905
特別損失合計	6,008	41,905
税金等調整前四半期純損失()	98,360	117,811
法人税、住民税及び事業税	1,168	861
法人税等調整額	-	-
法人税等合計	1,168	861
四半期純損失()	99,529	118,672
親会社株主に帰属する四半期純損失()	99,529	118,672

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失()	99,529	118,672
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	56
為替換算調整勘定	5,243	352
その他の包括利益合計	5,243	296
四半期包括利益	94,285	118,376
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	94,285	118,376

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
減価償却費	38,707千円	7,941千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	19円37銭	23円08銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	99,529	118,672
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	99,529	118,672
普通株式の期中平均株式数(株)	5,138,794	5,142,094
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月12日

株式会社ボルテージ

取締役会御中

P w C あらた有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 直幸 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 穴戸 賢市 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ボルテージの2019年7月1日から2020年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ボルテージ及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。